

# 西崎つばさ レポート

2016年8月30日発行 編集部：〒153-0051 目黒区上目黒 1-17-6-202 民進党東京都第5区総支部内  
TEL 050-3715-0283 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com



## 「セカオワ」に学ぶ。

まだまだ暑い日が続いていますが、お元気にお過ごしでしょうか。区議会では9月7日から第3定例会がスタートする予定です。

今回のレポートでは、にわかに世間の関心が高まっている、動物の殺処分問題を取り上げます。

### ■ ブレーメン

9月15日に行われる民進党代表選。その本命と目されるのが、私の元上司でもある蓮舂参議院議員ですが、「SEKAI NO OWARI（世界の終わり、通称セカオワ）」の曲を聞く事をツイッター等で明らかにしています。

私自身が最近の音楽を聞くことは少ないのですが、彼らが「ブレーメン」という動物殺処分ゼロ支援プロジェクトを開始したことを知り、あらためて注目させて頂きました。

このプロジェクト名は、役に立たなくなって人間に殺されそうになった動物たちを描いた童話「ブレーメンの音楽隊」に由来していると思われそうですが、実に示唆的です。現在の日本で殺処分される動物たちは、人間の都合で命を失っていると言えるからです。

### ■ 殺処分の現状

環境省によると、平成26年に全国の動物愛護センター等で引き取られた犬猫の数は約15万1千頭で、その2/3にあたる約10万1千頭が殺処分されています。

特に深刻なのが猫で、殺処分された犬猫の78%、8万頭近くを猫が占めており、さらにその6割は離乳していない子猫です。東京都に限定すると、平成26年に殺処分された犬が52頭（子犬はゼロ）なのに対し、猫は10倍以上の699頭、うち634頭が子猫です。

ここから分かるのは、特に都市部において、不妊・去勢手術を受けていない野良猫が繁殖する一方で、それら

の子猫がセンター等に持ち込まれ、まるで死ぬために生まれてきたかのように命を奪われているケースが多いという事です。

なお、殺処分の方法ですが、ほとんどの自治体が炭酸ガス（による窒息死）を用いています。一定濃度の二酸化炭素を吸引すると意識を喪失し、そのまま死に至るため、苦痛が少ないと解されていますが、気を失うまでの過程で苦しむという意見や、呼吸量の少ない子犬や子猫が生き延びる場合があり、そのまま焼却処分されてしまうという指摘もあります。

### ■ 目黒区は・・・

不幸な命を減らすためには、飼い主のいない犬猫をこれ以上増やさない事が最も重要です。動物行政は、一義的には東京都が担っているものの、目黒区でも「飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成」を行っており、年間200頭近くの手術に補助金を支出しています。

都によると、平成26年に目黒区内で引き取られた数は犬8頭、猫4頭で、それぞれが所有者に返されたのか、新たな飼い主が見つかったのか、殺処分されたのかは把握できません。ただ、一見すると少なく見える数字の背景には、地域の野良猫への手術や、子猫の一時保護などの活動に取り組む、ボランティアの方々の大変な努力が隠れています。

最後に、この問題の根底には、無責任な人間の存在がある事を見逃してはなりません。動物を捨てるのは論外ですが、無責任に繁殖させることも大問題です。

皆様の税金を財源として、遺棄された動物が捕獲・保護され、そのための施設が運営され、収容しきれない分として年間10万頭以上が殺されているという現実を、ひとりでも多くの方に知って頂きたいと思います。

皆さまのご意見をお寄せ下さい！ office@n283.com

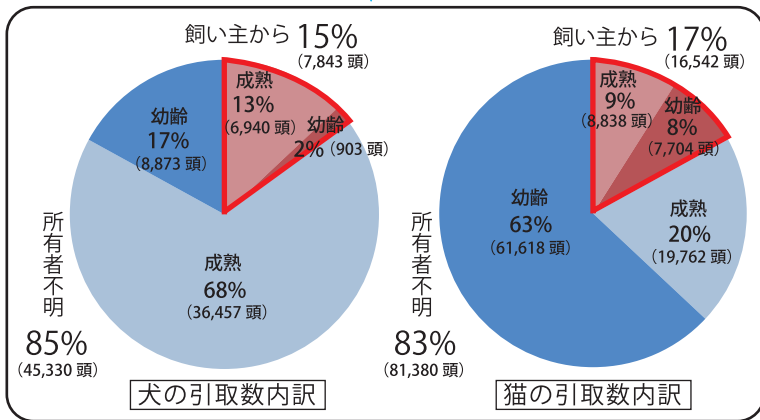
### 西崎つばさ プロフィール

32歳、1児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舂秘書。2015年4月、目黒区議選 初当選（2位・最年少）。企画総務委員会所属。

# 図解 殺処分の現状とは？

「犬・猫の引き取り及び負傷動物の収容状況」（環境省）をもとに西崎作成  
[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2\\_data/statistics/dog-cat.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html)

	引き取り数	処分数					
		返還数	うち幼齢個体	譲渡数	うち幼齢個体	殺処分数	うち幼齢個体
犬	53,173	14,286	56	17,339	4,691	21,593	3,592
猫	97,922	358	116	18,234	12,197	<b>79,745</b>	<b>47,043</b>
(うち東京都)							
犬	563	268	0	274	7	52	0
猫	1,035	1	0	341	269	<b>699</b>	<b>634</b>
合計	<b>151,095</b>	14,644	172	35,573	16,888	<b>101,338</b>	50,635

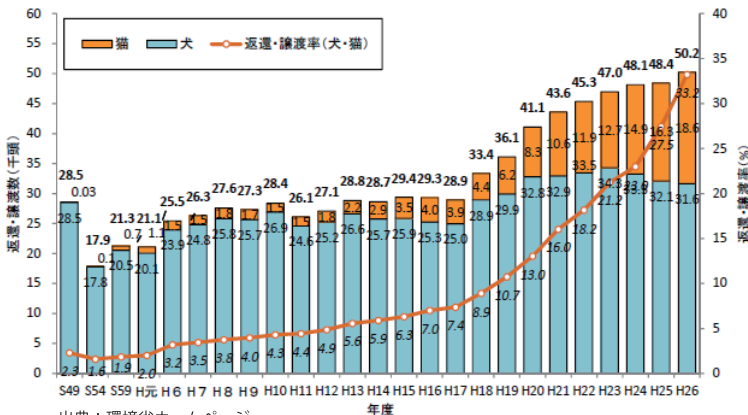


犬の場合、引き取り数の8割が成犬であり、全体の1/4以上が迷子であることや、成犬でも一定数の譲渡が成立している事が分かります。猫の方は、引き取りに占める成猫が3割にも満たないこと、子猫を中心にある程度は新たな飼い主が見つかったが、全く追いついていないため、多くが殺処分されている現状が見えてきます。

また、犬猫どちらも、飼い主が持ち込む幼齢個体は手術等で防ぐことができますので、絶対にあってはならないケースだと思います。

## 希望もあります。

下のグラフを見ると、返還・譲渡された犬猫が年々増加しているのが分かります。全体の引き取り数は、30年前に比べて100万頭も減っているにも関わらず、です。民間団体の活動は勿論ですが、行政側も、保護期間を延長したり、市民ボランティアと協働することによって、この数字をさらに伸ばすことは可能です。



## アニマル・ウェルフェアサミット 2016 に行ってきました。

殺処分ゼロも含め、様々な角度から動物福祉を考えるイベントに参加してきました。なお、主催団体の代表理事を務める滝川クリステルさんは、私の高校の先輩にあたります。(全くの余談ですが…)

特別企画として、先の選挙公約の一つに殺処分ゼロを掲げて当選した小池知事との対談が組まれました。知事の実力は未知数ですが、自治体のトップが旗を振ることは、政策を前に進めるうえで非常に重要です。動物行政は都の管轄とは言え、住民に近い区こそ適した事業もあります。手術費助成の拡充なども含め、今後の動向に注目したいと思います。



## <参考> 飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成制度 (目黒区)

区内在住者が対象。区内に生息する飼い主のいない猫に、指定された病院で手術を受けさせ、耳カット(※)などの実施に同意する事などを条件に、メスは12,000円、オスは6,800円を限度とした助成を行う。

(近年の実績)

	予算額	執行額	執行率	実施頭数
H25	1,848,000	1,832,325	99.2%	187頭
H26	1,848,000	1,653,820	89.5%	179頭
H27	1,848,000	1,885,460	102.0%	203頭

※ 耳カット…手術済みであると外見から判断できる印として、耳の一部を切り取ること。